

# いんなみのりこの 小さな声と共に



大田原市議会 民生常任委員 広報広聴委員

## ごあいさつ

お盆を過ぎててもまだまだ暑い日が続きますが、日が落ちる頃になると虫の声も聞こえ季節の移り変わりを感じるようになってきました。

市議としての活動も早くも八ヶ月が過ぎようとしています。振り返ると只々、無我夢中で走ってきたような気がします。

さて、6月定例会は6月13日から23日までの11日間を会期として開かれました。

今回の定例会では、市長の付属機関として「大田原市バイオマス産業都市構想策定委員会」の新設、保育士不足に対応した「家庭的保育事業等の基準の一部改正」などの議案が審議され、また、「畜産競争力強化整備事業費」が国の不採択により約三億円の減額補正措置を講じるなど予算補正も報告されました。

6月27日から30日の4日間市内4会場において、議会基本条例に基づく初の議会報告会が開催され、私は27日大田原市東公民館にて、「地域公共交通について」、「今後の議会報告会のあり方」をテーマに市民の方々と直接意見交換をさせて頂き、今後活動をしていく上で大変勉強になりました。

4月の屋台祭りを皮切りに8月の与一祭りなど市議として初めて参加させて頂き、あらためてこの町の伝統と文化に触れ、同時に豊かな自然が残り、先人たちに残して頂いた貴重な文化財や史跡がある事を再確認しました。そしてこれらが、貴重な観光資源で各地域に留まることなく大田原市全体でネットワークを作ることにより大田原市の観光を活性化出来るのではと考えて、今回の座談会のテーマを「大田原市の観光行政について」とさせて頂きました。

9月定例会ではこのテーマで一般質問も行います。これからも私は「小さな声を市政へ」届けるため、歩みを止める事無く働いていきます。みなさまよろしくご指導をお願いします。本日は、いんなみのりこ市政報告会にご参加いただき本当にありがとうございました。

## いんなみのりこ 活動記録

(5月から8月)

- 5月 3日 ポッポ農園 田町お隣子会演奏会参加
- 5月 16日 全員協議会
- 5月 17-19日 民生常任委員会 長崎県内行政視察
- 5月 21日 大田原中学校体育祭来賓参加  
大田原市女性団体連絡協議会研修
- 5月 28日 紫塚小学校運動会来賓参加
- 6月 3日 小山子供ランド視察  
民生常任委員会
- 6月 7日 那須塩原市定例会傍聴
- 6月 8日 広報広聴委員会
- 6月 11日 星雅人議員の「議会直前キックオフ  
ミーティング」参加
- 6月 17日 印南典子、一般質問(13-23日 6月定例会)
- 6月 20日 民生常任委員会  
議会報告会についての勉強会
- 6月 23日 全員協議会
- 6月 27日 第1回大田原市議会 議会報告会
- 6月 28日 広報広聴委員会
- 7月 10日 「笑って輪らって和になる育児」参加
- 7月 11日 広報広聴委員会
- 7月 14日 愛知県西尾市議会行政視察受入
- 7月 15日 全員協議会
- 7月 17日 矢板塩釜神社例大祭参加
- 7月 19日 那須地区議員交流会
- 8月 5日 与一祭り参加
- 8月 10日 民生常任委員会
- 8月 12日 全員協議会  
民生常任委員会
- 8月 15日 くろばね夏まつり来賓参加
- 8月 28日 いんなみのりこ第3回市政報告会
- 8月 30日 交通安全協会研修



第1回大田原市議会 議会報告会



笑って輪らって和になる育児

## 7月定例会 一般質問

### 1 高齢者ほほえみセンターについて

総人口に対して65歳以上の高齢者が人口に占める割合、これを高齢化率と言います。高齢化率が7%を超えた社会を高齡化社会、14%を超えた社会を高齡社会、21%を超えた社会を超高齡社会と世界保健機構いわゆるWHOや国連では定義しています。平成24年度の本市の高齡者人口は16,857人で、総人口74,509人に占める割合は22.6%であったのに対し、2年後の平成26年度の高齡者人口は1,218人増加して18,075人、総人口は1,122人減少して73,387人で、高齢化率は24.6%でした。年を追うごとに高齢化率の上昇スピードが速くなっていて今後も団塊の世代の高齡化の進展により急速な上昇が続くと思われ、既に大田原市は超高齡社会に突入しているというのが現実です。高齢者がふえ、若い現役世代が減少していく中で増加する介護給付金を直接的、間接的にでも、少しでも抑制するためには、介護予防事業は必要不可欠な事業で、本市においてもこれまでさまざまな取り組みをしてきました。特に地域みずからが主体となって高齢者の介護予防の支援をする介護予防拠点となる市内24カ所の高齡者ほほえみセンターの役割はますます大きくなっていくと思われ、そんな中で地域の高齡者ほほえみセンター等でのボランティア活動やその他の社会的活動が対象となる新たな地域支援事業、大田原市介護支援ボランティアポイント制度は、高齢者の社会参加及び介護予防の推進を図り、健康で生き生きとした地域社会づくりを実現し、高齢者の社会参加に関する意識を高め、元気な高齢者の増加に寄与し、結果介護給付金の抑制につながるなど、期待される効果が大きいのではないかと、ということで現在高齡者ほほえみセンターで活動している管理運営委員や介護予防リーダー、またはボランティアの方々の関心が高まっていると聞き及んでいるところです。

そこで、(1) 大田原市介護支援ボランティア制度「与一いきいきポイント制度」についてお伺いいたします。

今回介護保険法に定める地域支援事業として新たに実施する大田原市介護支援ボランティアポイント制度、通称与一いきいきポイント制度により行う介護予防に接するボランティア活動、これをいきいき活動と言いますが、このボランティアを与一いきいきメイトとして、今年7月26日から養成講座を受講してもらい、終了後登録申請の後、与一いきいき体操の実施、レクリエーション支援、補助、話し合い相手、お茶出し、行事等の補助などの生き生き活動を行ってもらうということですが、現在活動している介護予防リーダーが登録の際に受講した養成講座と一部重複する講座があり、介護予防リーダーの方々からは同じ講座をもう一度受講しなければならないのかしらなどの不安の声も聞こえているところ、介護予防リーダーには講座の一部が免除されるとのことで皆さん、これで与一いきいきメイトに登録しやすくなると意欲的になられているようでうれしい限りです。

そこで、(2) 介護予防リーダーがいきいきメイト養成講座を受講する際の配慮についてお伺いします。

平成28年度の高齡者ほほえみセンターの管理運営委託費は、24カ所の合計で2,451万4,000円です。大きな予算を組んでいただいているわけですが、これは運営費ということで建物の修繕や改善にまで回すのは大変だそうです。あるほほえみセンターでは、駐車場の車止めが歩行の支障になり、利用者がつまづいて転んでけがをしないかと心配な箇所があったり、雨よけのひさしがお飾りほどで雨のたびに利用者がびしょびしょにぬれてしまうなど早い時期に改善してほしいと

ころがあるそうです。また、新たな制度の与一いきいきポイント制度が実施されれば、当然今よりも利用者がふえるということが予想できますので、新制度実施の期にこういった危険箇所や不具合を改めて調査して対応していくのが望ましいのではないかと考えます。

そこで、(3) ほほえみセンターの建物の改善、改修工事について市のお考えをお伺いします。

与一いきいきポイント制度では、いきいきメイトが居住する地域のほほえみセンターに限らず、市内24カ所のほほえみセンターのどこでもいきいき活動に参加できるということで、それぞれのほほえみセンター同士やいきいきメイト同士のつながりが広がり活発になることで元気な高齢者がふえ、健康で生き生きとした高齢者が活躍する大田原市になっていくのではないかと大きな期待が持てるところであります。そして、それをさらに推進していくために必要なことの一つにPR活動があると思います。それぞれのほほえみセンターでは、趣向を凝らしたさまざまな活動を行っているということですが、ほほえみセンター同士や地域の方にも周知されていないという現状があり、現在の利用者も固定化傾向にあるという声もあります。各ほほえみセンターで独自のPR活動をするというのなかなか難しいということで広報や社協だよりなどにほほえみ通信などのコーナーを設けてもらい、同月の各ほほえみセンターの行事や活動予定などを掲載するなどの市の協力が必要ではないかと考えています。

そこで、(4) 今後の高齢者ほほえみセンターの活用と広告活動について市のお考えをお伺いします。よろしくお願いたします。

#### ◆津久井富雄 市長◆

質問事項1の高齢者ほほえみセンターについてのうち、(1) 大田原市介護支援ボランティアポイント制度、与一生き生きポイント制度について伺いたいとのご質問にお答えをいたします。与一いきいきポイント制度につきましては、65歳以上の高齢者が介護予防に資するボランティア活動、その他の社会的活動を通じて高齢者の社会参加及び介護予防の推進を図り、健康で生き生きとした地域社会づくりを推進することを目的しております。また、高齢者が介護状態にならないよう生活機能の低下を未然に防止することで保険給付の抑制になり、保険料負担の軽減につながる効果が期待できるものであります。具体的には、養成講座を修了し、いきいきメイトとして登録した高齢者が介護予防の拠点施設として位置づけられている高齢者ほほえみセンター等において与一いきいき体操を実施するほか、レ

クリエーション参加者の補助等を行った際に活動実績に応じて評価ポイントを付与し、そのポイント数に応じて子育て支援券を贈呈するものであります。現在平成29年1月開始に向け、与一いきいきメイト養成講座の開催や受け入れ施設の確保、周知広報等の準備を進めているところでございます。

次に、(2) の介護予防リーダーがいきいきメイト養成講座を受講する際の配慮について伺いたいとのご質問にお答えをいたします。介護予防リーダーは、平成27年度の12期生までに449人が養成講座を修了いたしましたし、養成講座修了後はフォローアップ講座や合同研修会を実施し、介護予防リーダーとなる人材の育成に努めてまいりました。

7月から開催する与一いきいきメイト養成講座につきましては、全7回の受講が必須であります。介護予防リーダーにおきましては介護予防リーダー養成研修のカリキュラムと重複する部分があるため、1期生から11期生は7講座中3講座、12期生は6講座を免除し、与一いきいきメイトとして活動していただけるよう配慮をしているところでございます。

次に、(3) の建物の改善、改修工事について伺いたいのご質問にお答えをいたします。高齢者ほほえみセンターにつきましては、平成25年度までに24カ所設置いたしました。施設によっては、設置当初から16年が経過していることから老朽化が進み修繕が必要な建物も出てきているものと思います。市では、毎年施設修繕料として予算を計上いたしまして、ほほえみセンター管理運営委員会から施設修繕の要望があった際には、その都度対応している状況にあります。施設の規模や耐久性等が異なることから建築年数により一律の改修工事は困難であるため、施設の状況把握に努めながらその都度対応してまいっております。

次に、(4) の今後高齢者ほほえみセンターの活用と広報活動について伺いたいのご質問にお答えをいたします。高齢者ほほえみセンターでは、介護予防リーダー等を中心とした介護予防活動を実施しているほか、高齢者の閉じこもり予防に関する対策事業として地域の実情に応じた季節行事活動や絵手紙作成等の市民活動、グラウンドゴルフのスポーツくらい自主的に開催をしております。また、平成29年1月から開始する与一いきいきポイント制度の受け入れ先として登録推進をしております。これにより高齢者ほほえみセンターの活用範囲の拡大がさらに期待されるところであります。今後も高齢者ほほえみセンター管理運営委員会連絡調整会議等におきまして、交友の機会を確保し、他的高齢者ほほえみセンターで行われる活動等の意見交換を通じながらセンター間での交流を促進してまいり

たいと考えております。

広報活動につきましては、高齢者ほほえみセンターの概要、所在地、開所日等が記載され、ほほえみセンターマップをホームページに掲載するほか、窓口に来られた高齢者等や関連する会議の際に配付するなど、広報周知に努めております。今後とも一層の利用のために地域を越えた利用を視野に入れながら積極的な働きかけを行ってまいりたいと考えております。参加する方は、積極的に参加をしていただけるのですが、参加をしない方は幾ら声をかけても参加はしない、健康診査の検診の受診と同じで興味のある方はいろんなところで顔を出していただいていつでもお会いできるのです。ところが、お姿が見えない方が4割、6割とおいでになっている、この方々にどうやってやはり世の中に出てきていただいて生きがいを感じていただくか、そういったところでは我々といたしましても一生懸命広報活動して、または勧誘活動、無理のない範囲の中ですすめていきたいと思っております。また、地域の見守り組織も充実してまいりましたので、そういったところも通しながらひとり暮らしをしていて寂しい思いをしている方々にもぜひ参加をしていただきたい、そのような活動も進めていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

◇印南典子 議員◇

大変いい制度であると思いますが、多少心配な点もございまして、いきいき活動1回につき1ポイントをボランティア手帳にスタンプして、10個で1,000ポイント度に子育て支援券1,000円贈呈し、上限は200個で子育て支援券2万円分ということですが、いきいき活動に張り合いが持てる反面、現在のサポーター手当をもらい、子育て支援券ももらって活動することに無償ボランティアとして活動したいという方から戸惑いの声もあります。その点については、どのようにお考えかお教えてください。

◆津久井富雄 市長◆

多様な人生観という考え方でありまして、1つはポイント制度というのはある意味社会参加、健康政策のインセンティブ、付加価値をつけてそういった運動に勧誘をして、その結果として高齢者の皆様方がいきいき人生に入っていける、これを無理やり引っ張ってくるというわけにはいきませんので、何らかのインセンティブ、いわゆる付加価値をつけるということで興味を持っていただいて、ああ、こんなことをしてポイントもらえるのだ、子育て支援券なのだ、それでは子育て支援券だったら孫のために何か買ってみようか

とか、それが地域の商業活性化につながっていく、今までやはり先人がつくってくれたいろいろなよき制度、それらをもっともっと有機的に結合して、そこに今必要とされている、いわゆる何もしなくても一生懸命無償でボランティアをしますよという方もいるのですが、それだけに頼っていて本当に超高齢化社会を乗り切っていくことができるのかということなかなか難しい。それで、こういったポイント制度いわゆるインセンティブというものを加えることによって興味を持っていただく、参加をしていただく、そういったことでお金のほうも本当に微々たるお金ではあっても、それが自分たちの生活の豊かさ、または人生観を変えていく、周りの方々に影響を与えていくというところでいい循環にめぐっていくという、そういった意味合いで無償ボランティアでも結構だという方はそのまま自分の位置で無償ボランティアをやっていただいて、健幸ポイント欲しいねという方は健幸ポイントいただいて、これはもらっても隣の方に上げたからといって我々政治家ではありませんから、寄附行為になりませんので、喜んでいただけたらと思いますから、我々がそれやってみると寄附行為ですからやってはいけませんけれども、そういったことで皆さんが喜ぶ制度にかわっていただけたらばうれしいなと思います。そういうことでご理解いただきたいと思っております。

◇印南典子 議員◇

確かにさまざまな価値観があります。それで、欲しくないという方は無償のままということも一つの選択肢だとは思いますが、1つ事例がございまして。この制度の先進地、東京都稲城市では、東日本大震災以降希望に応じて介護支援ボランティア転換交付金、これが大田原市でいうところのポイントになるのですが、稲城市社会福祉協議会を通じて日本赤十字社へ被災地復興義援金として寄附できるようにしています。このような選択もできればお金をもらうことに戸惑いがある方にも取り込みやすくなると思いますが、市のお考えをお伺いいたします。

◆津久井富雄 市長◆

全く同感でございます。そういった取り組みをしていく必要があるだろうと思っておりますので、そのように取り計らっていききたいと思います。

◇印南典子 議員◇

また、先進地東京都稲城市では、介護ボランティア活動の参加者の介護認定率の減少効果を図るためには人口当たりの減少率の目標値を定めて、介護予防効果

の継続的データ収集、評価を実施しています。本市においてもボランティアの効果を客観的に把握するために必要なことと考えますが、市のお考えをお伺いします。

◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

今現在まだ始まっていない状況で、養成講座も7月からというふうな状況でございます。多々ご指摘いただきましたその効果というか、そういった部分につきましても今後やっぱりやるからには検証していかなければならないというふうに思っておりますので、こういった形でやっていくかというのを細かい部分をこれから詰めてそういう効果をあらわしていきたいというふうに考えておりますので、ご理解いただければと思います。

◇印南典子 議員◇

ご答弁ありがとうございます。それでは、これからの高齢者ほほえみセンターの活用としてということで1つ事例というか、案をお話ししたいと思います。

先月行政視察で訪れた長崎県諫早市の事業で興味深い事業があるので、ご紹介します。雑紙リサイクルという事業で、家庭から出る空き箱、包装紙、封筒、プリント類、パンフレットなどリサイクル可能な紙類を燃えるごみとして出すのではなく、貴重な資源として再び紙製品によみがえるために市内20カ所に資源ストックハウスというプレハブ小屋を設置。設置場所は、各地区の支所や公民館と出張所などのふれあい会館で年末年始を除き毎日開放し、家庭の中にごみを保管することなく、雨の日でも買い物の中や通勤や子供の送迎の途中などでも立ち寄って持ち込むことが可能です。ごみを減らせ、エネルギー消費が少なくなり、資源が有効利用できることはもちろん、プレハブ設置費用、これは約40万円と言っておりましたが、を除けば年間の管理費としては自治会、子供会の鍵のあけ閉め



長崎県内行政視察

などの協力費わずか年間10万円だけの支払いで済み、その費用も雑誌の売却益、年間これが約1,000万円、この中から支払われるというので、市からも持ち出し金はゼロということです。このような事業を市内の高齢者ほほえみセンターで行えないかなとあるセンターの方にお話ししたところ、ぜひやってみたいというお答えもいただきました。このような新たな活用も今後ご検討いただければと、ますますほほえみセンターの活発な利用につながるのではないのでしょうか。元氣政策、生きがい政策によりますます元気なお年寄りがふえ、高齢者ほほえみセンターがますます活発に活用されることを強く希望しています。

(1の質問は)終わったのですけれども、よろしければご意見を伺わせていただけたらありがたいのですが、よろしく願います。

◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

ただいまのご提案について答弁させていただきます。

形的にはちょっと違うのですけれども、大田原市におきましてもごみの減量化、資源化を推進するというふうなことで市民の方々に団体で登録をしていただきまして、その方々が古紙であるとかペットボトルあるいは古着等、そういったものを集めて、集まった分に対して奨励金を出すというふうな、そういう制度がございます。生活環境課のほうで担当しているのですけれども、ちょっと生活環境課のほうとも話をしたところ、ほほえみセンター等の運営委員会等で登録をしていただきまして、そういった活動をしていただければそれなりの報賞金というか、形は出せるというふうな状況でございます。ですから、それがほほえみセンターの自主財源として使えるような形になるのか、ひいてはごみの減量化というか、そういったものにつながっていくというふうなことです。そういうふうなご提案もありますので、この後ほほえみセンターの管理運営委員会連絡調整会議がございますので、24ありますほほえみセンターの皆様がお集まりになりますので、そこでこういったことがあるということをもまずPRをさせていただきます。そしてもし取り組むというふうなほほえみセンターがございましたら、生活環境課のほうにちょっと話をさせていただいて、とりあえず登録をしていただくということで、そういった活動をしていけるような各ほほえみセンターにPRをしていきたいというふうに考えておりますので、ご理解いただければと思います。

◇印南典子 議員◇

とてもうれしいご答弁ありがとうございました。

## ② 子ども未来館について

再開発ビルトコトコ大田原にある子ども未来館は、町中で子育て世代の社会活動を支援する目的を踏まえて、子育て世代を支援する施設やサービスを提供することにより、親子の触れ合い創出、子育て負担軽減と子育て環境の充実、子育て世代の文化活動や勾配活動等の促進を図るための施設で遊びの中から年齢に合った体力、地力経験を養い、また子供たちを見守る保護者たちの暖かい見守りがその子育て世代の時間の共有となり、地域住民との交流、相談、悩みなどの意見交換として子育て共有スペースとして子育て世代や子供たちがにぎわうことで中心市街地の活性化と一体化を図れることを目的としています。そして、その中のわくわくランドキッズタウンは、遊具のメンテナンスや更新などの費用の確保等の理由から今年度の4月1日から一部の方を除き有料化となりました。

そこで、(1) 有料化以降の入場者数の今後の見通しについて伺います。

(2) 来場者を充実させるための今後の市の取り組みについて伺いたします。よろしく申し上げます。

### ◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

質問事項の2、子ども未来館についてのうち、(1) 有料化以降の入場者数と今後の見通しについて伺いたいのご質問にお答えをいたします。

子ども未来館のわくわくランド、キッズタウンの本年度の入館者数は4月が14,940人、5月が13,916人でありました。市内、市外の割合でございますが、市内の方が約4割、市外の方が約6割となっており、昨年同時期と比較をいたしまして、入館者数は約3割ほど減少しております。子ども未来館オープン以降、前年度末まで当施設を無料開放としてきましたが、土日、祝日、連休には想定以上の入場者により施設内が飽和状態となり、現場スタッフの対応に困難な状況が生じたり、また施設内の遊具等の消耗も激しく、購入や修繕を要する箇所も多くあったため、入場者への適正で安全な施設利用サービスの観点から考えますと、むしろ現在の土日、祝日、連休の入場者数は適正な状況になったともいえ、入場者に対し安全な施設利用の環境を提供できていると考えております。有料に伴う入場者数の減少は想定内のことであり、今後の見通しにつきましてはしばらく現在の状況が続くのではないかと考えております。まだ2カ月経過したところでありますので、今後の経過を見てまいりたいと考えております。

次に、(2) 来場者を充実させるための今後の市の取

り組みについて伺いたいのご質問にお答えをいたします。子ども未来館は、ご存じのように指定管理者として株式会社まちづくりカンパニーに運営をお願いしているところでありますが、来館する子供たちに楽しんでもらうためにまずはスタッフみずからが楽しい気持ちで仕事をするのが大切という意識を持ち、雰囲気づくりに取り組んでおります。遊びに来てくださった子供たちに楽しい時間を過ごしていただき、来てよかった、楽しかった、また来たいと感じていただけるような具体的な取り組みといたしまして、これまで以上に積極的に挨拶や声かけをし、笑顔でのお迎え、笑顔での見送りをスタッフ全員心がけているところでございます。また、今年度から子供たちが喜ぶような楽しい雰囲気の音楽を館内全体にBGMとして流しております。遊具につきましても新たなものを幾つか導入し、喜ばれております。今後も遊具などを定期的に入れかえるなどの工夫をしてみたいと考えております。

### ◇印南典子 議員◇

それでは、再質問をさせていただきます。

本件小山市のキッズランドおやまのスタッフ、このような子供ランドのスタッフなのですが、保育士の資格を持ち、遊びのプロと言われるプレリーダーやプレワーカーと言われる人たちを採用しています。先月行政視察で訪れた長崎県大村市のこども未来「おむらんど」のスタッフは、パート職員に至るまで保育士の資格を有する方で運営されています。本市の子ども未来館も有料化に伴い付加価値を上げ、利用してくれる方の満足度を上げるためにもさらなる充実を図るためそのようなことも有効ではあると思いますが、市のお考えをお伺いいたします。

### ◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

ただいま他の施設での取り組みの状況をお聞かせいただきましたけれども、保育士の資格を持った職員を配置するということが大変素晴らしいことだと思います。ただ、現実的に今保育園等で保育士さん、役所でもそうですけれども、臨時の保育士さんでも探そうとしてもなかなか探せない状況がございます。確かにそういうところで付加価値をつけて保育士さんを入れてより有効な施設にしていきたいという部分は重々わかりますので、今後運営をお願いしておりますまちづくりカンパニーのほうとも協議をした上でそういった対応がとれるかどうか、その辺をよく調査をしていき

いというふうに考えております。ただ、現実的になかなか保育士さんを見つけるというのは、非常に私のほうでも保育園のほうを預かっておりますけれども、本当にちょっと状況的にきつい部分がございます。その辺でどういうふうになるか、ちょっとまちづくりカンパニーのほうでもよく調整を図っていきたいというふうに考えております。

◇印南典子 議員◇

親御さんがいないときなど有料化になったので、お金を持っていかねばならない、それで決まったお小遣いを与えられていないお子さんなどは足がどうしても遠のいてしまう、お金がないので、利用できない。雨の日などは、公園でも遊べないから結局家でゲームなどをして時間を潰して遊んでいるというお子さんのお話なども聞きます。ちょっと悲しくなります。そのようなお子さんに少しでも多く利用してもらうために年間パスポートを発行するというのはどうでしょうか。小銭を持っていかなくても済みますし、年間2,000円とか3,000円とかで発行すればそのカードだけで繰り返し使えるというのであれば、毎回200円負担することよりもずっと負担も抑えられるのではないかと思います。親御さんには、1度お金を2,000円なり3,000円なり出してもらわなくてはなりません、幸い当市では給食費を無料にしておりますので、家計が浮いた分で少々出していただいて割安のパスポートを使い有料化で利用できなくなったお子さんが利用できる助けになるのではないかと考えますが、市長のお考えをお伺いしたいのですが、よろしいでしょうか。



◆津久井富雄 市長◆

私、常々知恵と愛のある共同互恵のまちづくり、お金がないなら知恵を出してということで今回印南議員さんからのご提言は大変知恵のある工夫をされたご提案をいただいて感銘をしているところでございます。年間パスポート等につきましても、調査をさせていただいてどういう形でパスポートをつくったら公平性とか、またはいろんな意味での利便性を考慮して皆さんが満足していける制度につくれるか、調査研究に入りたいと思います。

◇印南典子 議員◇

それでは、最後の質問になりますが、下に小さなお子さん連れの方が上のお子さんと一緒にいったときには、赤ちゃんを抱いていなくてはならない、そういうときにはベビーベッドなどをフロアに何個かでも置くとすごく負担が軽減されるのではないかと思います。私も今回行った行政視察とか小山とか、そちらのほうでもフロアにベビーベッドが置いてあるのです。そうすると、ちょっと赤ちゃんを置きたいというお母さんは赤ちゃんを置いて上の子を見てあげることもできるということで、それほど多額のお金を投資しなくても優しさと思いやりのある配慮になるのではないかと考えておりますが、市のお考えをお伺いいたします。

◆岩井芳朗 保健福祉部長◆

ただいまのベビーベッドの設置というふうなご提案でございますけれども、これにつきましてもまちづくりカンパニーのほうの運営状況もございますので、それとあとスペースの問題、そういったものもありますので、よく現場のほうと調整をして検討してまいりたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

◇印南典子 議員◇

子ども未来館が今後も多くの子供たちでにぎわい、子供たちの居場所であり続けられることを願って、本日の私の全ての質問を終わります。ありがとうございました。

2016年8月28日発行

## いんなみのりこと共に歩む会

いんなみのりこと共に歩む会会長 二見令子

事務所：大田原市町島 200-39

TEL：080-5697-8581

<http://innami-noriko.info/>

いんなみのりこ

